

六条大麦「さちかぜ」について

来歴

- 平成20年、作物研究所（現：農研機構 次世代作物開発研究センター）において、「関東皮86号（後の「カシマゴール）」を母親に、「関東皮74号」を父親として交配した後代から育成された。

栽培特性等

- 「すずかぜ」に比べ、多収、長稈で外観品質はやや優れる。
- 実需者による試験焙煎の結果、麦茶加工適性は「すずかぜ」と同等である。
- 「すずかぜ」より出穂が早く、播性程度がI（低温感受性が低い）であるため、凍霜害防止のために極端な早播は避ける。
また、倒伏を避けるため極端な厚播や多肥は避ける。



さちかぜ



すずかぜ

現在の普及状況

- 品種登録出願中（平成30年12月出願公表）で、平成30年度埼玉県種苗審議会で認定品種に採用された。
- 現在は、麦茶の加工適性について、実需者による製品用実機で焙煎試験を行うための麦を現地で栽培中である。

今後の予定等

- 実需者評価や動向を踏まえつつ、「すずかぜ」からの転換を図る。
- 今後の普及予定地域は「すずかぜ」の作付地域（熊谷市、深谷市、行田市、坂戸市等）である。